

「学ぶ土台づくり」圏域別親の学び研修会

第1回 6月7日(火) 気仙沼市立波路上保育所

講師：宮城県家庭教育支援チーム協議委員 波多野 ゆか 氏
ファシリテーター：宮城県家庭教育支援チーム地域実践リーダー 稲荷森 裕子 氏



【受講者の声】※抜粋

- ・先生の話はどれも私が思っていることとドンピシャだった。悩んでいることも話の中であって、涙が出そうになった。もっと話を聞きたかった。
- ・我が家の子供は、なかなか上手に話ができないが、保育所で何をしてきたか、毎日、つついしつく聞き、言葉を待たずに急がせていたのを反省した。もう少し、ゆったりと向き合って子育てしたい。
- ・心のキャッチボールという言葉がすごく心に残った。言葉が一方通行にならないよう、子供たちの声をちゃんと聞いてあげようと思えた研修会だった。
- ・子供との向き合い方のヒントを聞いてよかった。日々悩むことばかりだが「子供の行動には理由がある」ということを忘れていた。すぐに目くじらを立てず、一度子供の立場から話を聞くのが大事だと思った。

第2回 6月24日(金) 気仙沼市立鹿折こども園

講師：宮城県家庭教育支援チーム協議委員 波多野 ゆか 氏
ファシリテーター：宮城県家庭教育支援チーム地域実践リーダー 伊藤 孝 氏
宮城県家庭教育支援チームチーム員 吉田 順子 氏



【受講者の声】※抜粋

- ・子供との関わりについて、何が正しいのかが分からなくなっていたので、とても勉強になった。上の子が小学生なので、下の子をあまり気にかけていなかったが、下の子の不安を受信できるようにしたい。
- ・とても楽しかった。子供が「チクチクことばはだめだよ」とか、「まっ、いいか」とかよく言っている。良い意味で明るく楽しく毎日を送っているんだなと感じた。
- ・もっと子供たちと話をしたり、スキンシップを取ったりしようと思った。親がお手本になって、なってほしい姿を子供に見せられるように、努力しようと思った。
- ・自分がしてきた子育てがどうだったかの答え合わせのようなことができた気がした。子供にとって良い接し方は続け、良くないと思う習慣は改善していきたいと思った。長男が小学2年生なので、長男が年長だった頃にこの講座を受けたかったなと思った。



【受講者の声】※抜粋

- ・子育てにおいて大切なことを改めて知ることができた。具体的なアドバイスをたくさんいただいたので、今日のコミュニケーションから実践していきたいと思う。いろいろな工夫があって、楽しくお話を聞くことができた。
- ・言葉のキャッチボールを、実際のキャッチボールで再現して下さったのは、とても分かりやすく腑に落ちた。子供に伝えるときに意識したいのと、子供の言葉遣いがよくない時に私も実際に再現して子供に見せてあげたら分かりやすいと思った。
- ・親子の絆の土台づくり・分かりやすいお話だった。改めて、子供の接し方を気づかされた。一人ではないと言っただけで励みになった。
- ・ガミガミ怒る毎日にうんざりしていたので、ほめたりかけたりする言葉をたくさん教えていただけて参考になった。忙しいとどうしても子供との時間が削られてしまうので、多少家事の手を抜いても、しっかり目を見て話したいと思った。
- ・子供との会話の中で聞いていたつもりでも聞いていなかったのかなあと気づかされた。もっと親からも話しかけて、幸せシャワーの言葉をたくさんかけてあげたいと思った。
- ・子供が大きくなるにつれてだんだん余裕がなくなり、子供に対してつらく当たることもあった。余裕と時間を作ることが大事かもしれない。
- ・つつい「ママ見て～！」の声を忙しいときに「ちょっと待って！」と流してしまっていた。目を合わせることの大切さを感じた。
- ・とてもすばらしいお話を聞かせていただいた。普段の生活の中に意識して今日学んだことを取り入れて子供と向き合っていきたいと思う。
- ・みんな悩みはたくさんあるのだなと思った。あまりガミガミ怒らないで楽しみながら、子育て頑張っていきたい。
- ・普段思っていた悩みを吐き出せて少しすっきりした。また他の方々も自分と同じような悩みがあると知って、自分だけじゃないのだと思うことができた。まずは毎日のコミュニケーションを丁寧に意識して頑張りたいと思う。
- ・初めてこういう研修会に参加させてもらって、とても良かった。子育てに正解はないと思っはいるが、自分の育児をそんなに不安に思うことはないのだと思い、気持ちがすっきりした。
- ・子供との会話のキャッチボールをしているつもりだったが、一方的になっていたかと思った。
- ・言葉のコミュニケーション、たくさんしていきたいと思う。とても有意義な時間で、とても気持ちが軽くなった。
- ・親子のコミュニケーションはすごく大切なのだなと学んだ。いつも忙しくて子供の話をちゃんと聞いてあげられてないので、もっとしっかり聞こうと思う。
- ・分かっているつもりでも日々の生活に追われ、なかなか子供と向き合う時間がない日常。こうして話を聞くと改めて向き合う時間の大切さを感じた。少しずつでもよい日々を送れるように目を見て声をかけて関わりたい。
- ・夫にも聞いてほしいなという思いでいっぱい。もっと子供に寄り添う関わり方ができるといいなと感じた。